

軍務局

第一課長 (山部)
第二課長 (小)

「ニコラエウス」 派遣隊派遣要領

員 (印)

土上院

一、派遣の目的

一、第十四師團、該地守備隊並海軍無線電信隊ト連絡シ居
留帝國臣民ノ保護並該地方治安維持ニ任ス

二、派遣隊ノ兵力

二、派遣隊ノ兵力編組左ノ如シ

派遣隊本部

歩兵一大隊 概テ平時編制トシ機關銃四及行李ヲ屬ス

山砲兵一中隊 四門編制

工兵一小隊 概テ平時編制トス

無線電信隊

三、乘船上陸地

三、乘船上陸地ヲ左ノ如ク豫定ス

可
分
合

0155

0310

乗船地 小樽

上陸地 デカストリ―灣

四、行動要領

四、派遣隊ハ「デカストリ―灣」ニ上陸シ概ネ黒龍江ニ沿ヒ「ニコ
ラエウスク」ニ到ル

五、「ニコラエウスク」到着後ニ於テハ該地ニ位置シ第十四師團ノ
守備隊ヲ併セ指揮シ居留帝國臣民ノ保護並ニ地方治安維
持ニ任ス

六、浦潮派遣軍司令官及行動地域ニ在ル帝國外交官憲ト密
接ニ連繫ヲ保持ス

五、通信

七、「デカストリ―灣」ニ軍艦ヲ派遣シ軍艦無線電信ヲ經由シテ
宗谷（デカストリ―、宗谷間七〇〇吉米）ト連絡ス（夜間ハ船橋ト）
通信シ得

六、^カテカストリ^リ守備隊
八、別ニ歩兵一中隊ヲ以テ^カテカストリ^リ守備隊ヲ編成シ一
時派遣隊長ノ指揮ニ屬シ^カテカストリ^リマリンスク^ク附近ヲ
占領シ派遣隊ノ後方業務ニ任セシム

0157

尼港派遣隊補給計畫

一、派遣隊ノ補給ノ爲「デカストリ」守備隊ヲ編成シ一時派遣隊長ノ指揮ヲ受ケシメ「マリンスク」間ノ補給ヲ擔任セシム

「マリンスク」以北ハ派遣隊自ラ所要ノ軍需品ヲ携行ス
 派遣隊尼港到達後「デカストリ」守備隊ヲ撤去ス

二、派遣隊携行軍需品ノ数量及所要機数左ノ如シ

- (イ) 糧 食 (七百五十人、十六日分) 四千八百貫
- (ロ) 兵器 彈藥 (山砲四門、彈藥一門百發、機關銃四挺、彈藥一銃一發、小銃彈一銃百發) 三千二百貫
- (ハ) 毛布、天幕 (毛布一人一枚、天幕方錐三個) 一千貫
- (ニ) 行 李 (金櫃公用器具、將校医板) 五百貫
- (ホ) 水 炭 (一人一日二百匁) 二千四百貫
- (ヘ) 沸水車及濾水器伐截具 百五十貫

(ト) 馬糧 (一日一馬一貫五百匁)
機用二百二十頭分)

五千二百八十貫

計

一万七千三百三十貫 (機数八十貫積
約二百二十)

三、デカストリール 守備隊ノ擔任スヘキ軍需品ノ数量及所要

機数左ノ如シ

(イ) 糧食 (九百人分四日分)
(一人一日量四百匁)

千四百四十貫

(ロ) 木炭 (一人一日五百匁)

千八百貫

(ハ) 馬糧 (一日一馬一貫七百匁)
機用五十頭分)

三百四十貫

計

三千五百八十貫 (機数五十)

四、行程

「デカストリール」—「マリンスク」間 十五里 四日

「マリンスク」—「尼港」間 六十五里 十六日

五、沿道物資等ノ利用

(イ) 宿營力ハ二梯團トナリ行軍スレハ黒龍江沿道ハ概

不家屋ヲ利用シ得

- (四) 黒龍江沿道馬糞中糞用品ハ約三分ノ一ヲ徵集シ得ヘシ
(五) 黒龍江沿道ノ糞ハ「マリンスク」ニテ百五十「ポリシエ」ミハ
イロフスコエ」ニテ三百ヲ尚其他ニ於テモ徵集シ得ヘ
キヲ以テ要スレハ人員ヲ搭載シ得ヘシ
六、防寒被服ハ概ネ我制式ヲ用ヒ羅紗靴ヲ一人宛ニ足ヲ
支給ス

懐爐ハ一人一個豫備 $\frac{1}{10}$ 灰ハ一人宛五十本

- 七、^コ「デカストリ」守備隊ハ「マリンスク」ニ主力ヲ一部ヲ^コ「デカ
ストリ」^コ「マリンスク」間ニ配置ス之レニ要スル資材次ノ
如シ

方錐形天幕 十個

バラック用建築材料五十人入一組及所要ノ大工

野戰煖爐

二個

0161

0810

4 船舶準備命令

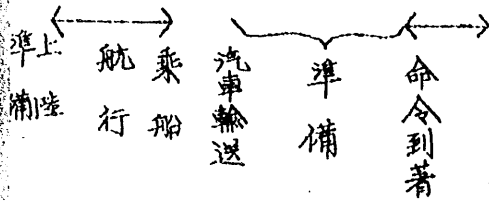
2 3

日 1 派遣命令

5

小樽廻航

10



判決

二月二十日以前ニ派遣ヲ命スルヲ要ス

但シ船舶ノ準備ハ遅クモ二月十七日ニ之ヲ命スルヲ要ス

理由

一、命令下達ヨリ尾港到着マテ三十五日ヲ要ス

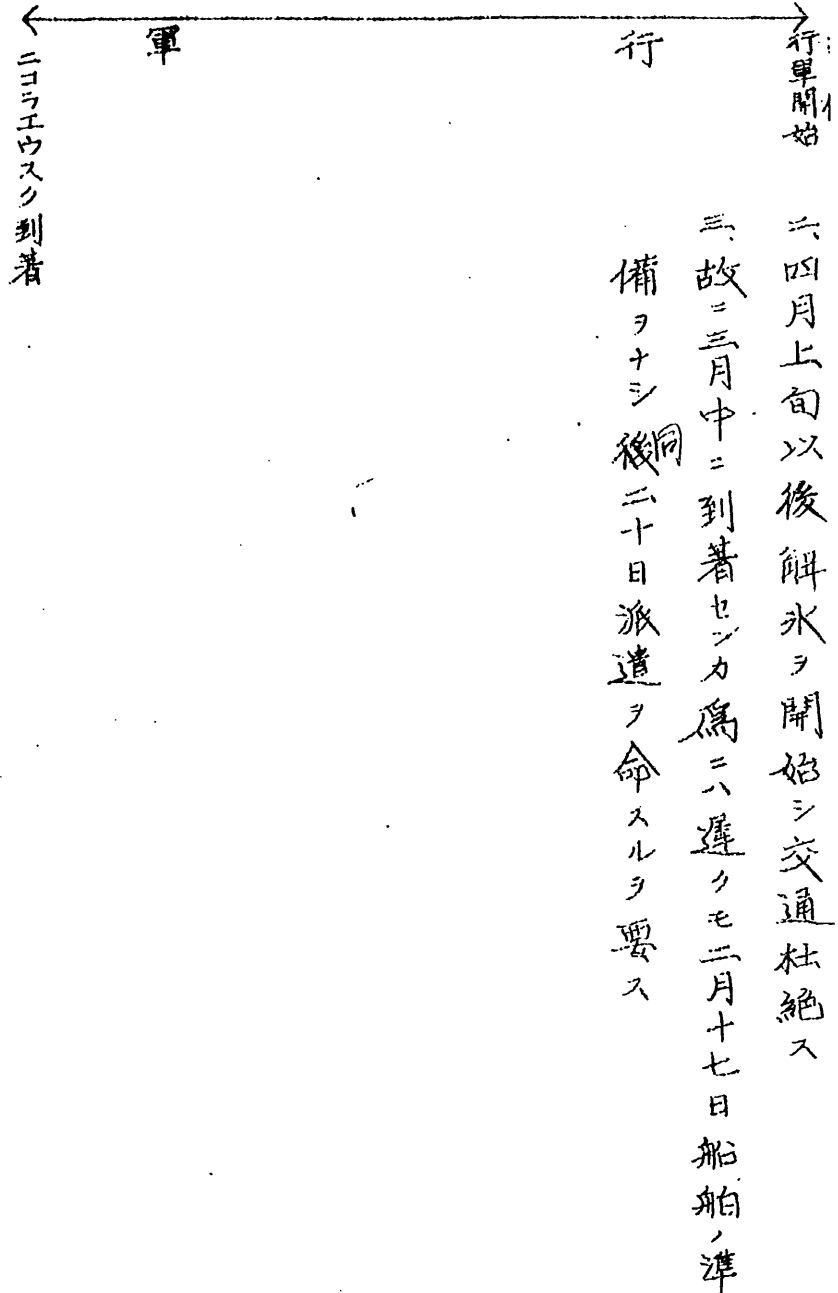
35

30

25

20

15



0163

二二二

カガキ書、ニコラエフスラ、増長

関る関底決意、熱心書

熱心書、アガキ、アガキ、アガキ

別紙、也、王、王、王、王、王

軍、信、中、隊、約、約、約、約、約

の、の、の、の、の、の、の、の、の

五、翻、入、多、多、多、多、多、多

新、の、内、海、可、可、可、可、可

丁、丁、丁

新、新、新

カガキ書、カガキ書

極秘

真

軍務局

軍令部

切

派遣隊司令官

機手渡

次官

二月十八日
午前十一時
分發電齊

海軍

0165

官房機密第二号
極秘
南軍政府
龍州ヨリ我軍ヲ撤退シ又後貝加南ヨリハ

浦塩斯徳ニ至ル沿線ニ過激派武装團隊存在ヲ許サ

方針ヲ執ル
軍司令部

右貴官限リ
合宜ニ不取敢内報ス

各班長

機密

山島澄

(明正印刷機)

海軍

第三艦隊司令長官

第五戰隊司令官

次官

官房秘書第二号

左通臨時派遣隊司令官ニ電報セリ

(前出) 極秘

第五戰隊司令官ニ直接電報済

一月十八日發電済

(明正印刷社)

0166

軍務局長

大正九年五月十三日閣議決定

陸軍省

後貝加爾ヨリ浦潮ニ至ル間ニ於ケル過激派

軍隊ニ對スル派遣軍ノ態度ニ就テ

大臣ヨリ大井軍司令官ハ電報案

現時ノ情勢ニ鑑ミ將來我軍ノ執ルハキ行動ニ關

シ奈良中將ヲシテ貴官ニ傳達セシメタル主旨ノ實

行ヲ容易ナラシメ且穩健政治團體ヲシテ過激派

ヲ壓迫ヲ免レシムルハ我軍ノ守備區域ノ安定ヲ得

ル所以ナリト信スルカ故ニ貴官ハコケエツク軍ノ還送輸送

ヲ容易ニスル必要上沿道ノ治安ヲ確保スル名義ヲ以

テ後貝加爾地方ヨリ浦潮斯德ニ至ル沿線上貴官

ノ定ル地域内ニ過激派ニ屬スル武装團體ノ存在ヲ

許ササル旨ヲ警告シ且其ノ監視ニ必要ナル方法ヲ
講セラルヘシ但シ豫メ穩健政治團體ト意思ヲ疏
通シ且支那側トモ打合セラルルヲ必要ト認ム當方ヨ
リモ支那中央部ヘ交渉スヘシ又黒龍州ヨリ我軍ヲ撤
退スルコトニ就テハ參謀總長ヨリ指示スル筈

0168

本件は
是等の
時移り
を以て
東部
を以て
中心
として
考へ
らる

原

第五戦隊司令官

臨時派遣隊司令官

次官

海軍

尼市居留民保護為ノ陸兵一大隊ヲ基幹トスル一部隊ヲ令
市ニ步兵一中隊ヲテカスリシニ派遣シテ、副議長決定セリ
右増派遣部隊ハ 日小樽発 日頃チカストリ着
南後概十里龍江沿北上月月中旬尼市着、予定

(明正印刷社)

海

軍

陸軍軍令第十三行軍令

二月二十三日 周海 吉本

九年九月九日 吉本 海軍

陸軍軍令

0170

供覽

辨覽

各班長

濟



軍務局

第一課
第二課

局員

海軍

三十三百五拾部
九二十八

9.2.11
受接

陸軍省直傳課ヨリ相談

古原中佐

陸軍省官房参中佐ヨリ九記要旨ノ話シアリタル付

新聞発表其他ヨリキテハ林有別友ニ相談セハハト

ハ承知アリ度旨答ニ置テ

美中佐訪要旨

一 宣傳、有効ナル所以(者因)

二 宣傳ハ陸海軍密接ナル連絡ヲシルニ必要

三 之が為海軍側ニテハ惟シラ者、相手トシテ交渉シテ

ヨリシキヤ中承知致ス

陸軍省官房直傳課(美中佐ヲ長トシ七八人)

海軍省(中佐ヲ長トシ七八人)

各課長

(明治四十四)

0171

極秘

軍務局長



第一課



海



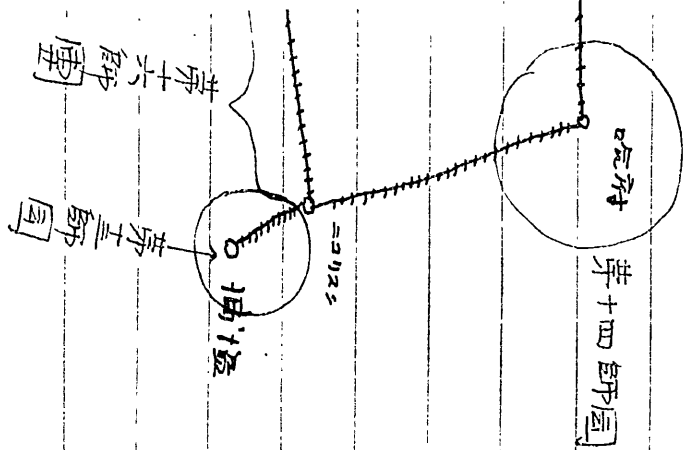
軍

派遺軍兵力配備概要



九年友

陸一軍出兵後



0172

0173

軍務局長

第五

第一課

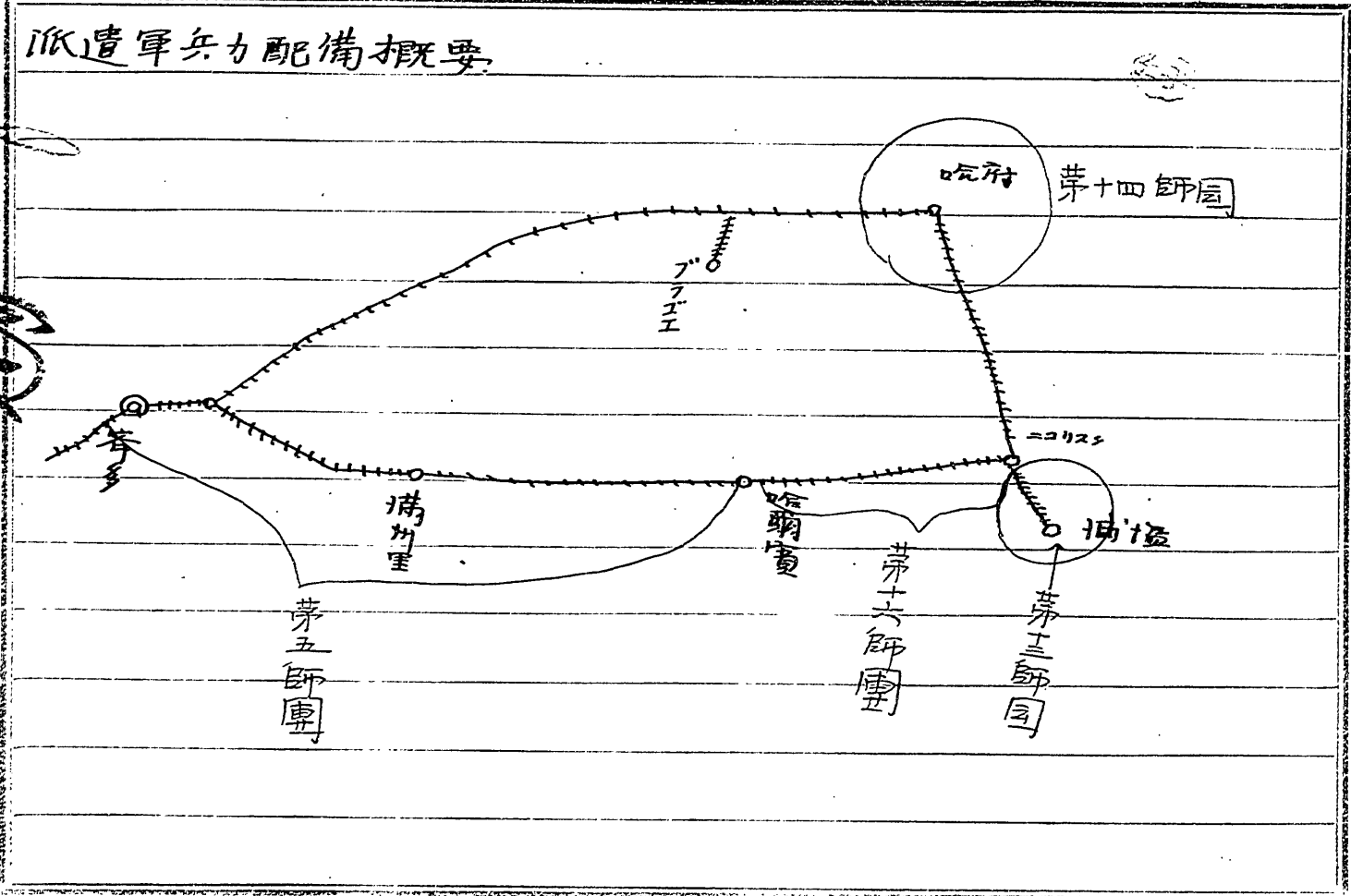
報

海軍

派遣軍兵力配備概要

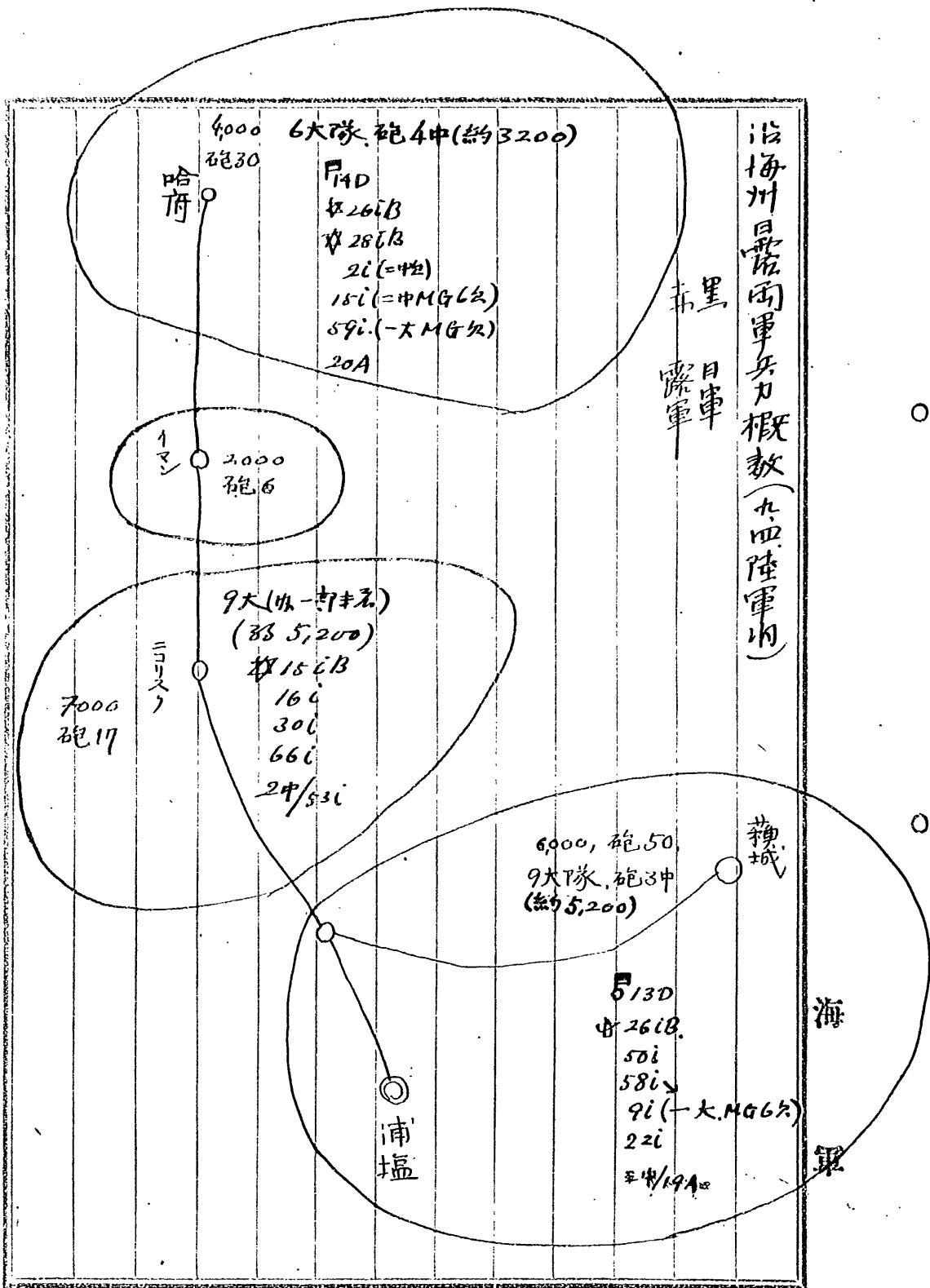
極秘

水



0172
0173

(第五師団)



(明正印刷)

臨時派遣隊兵力

准士官以上

四七

下士及兵

四〇〇

計四四七

銃数

十銃

二八三

拳銃

一八八

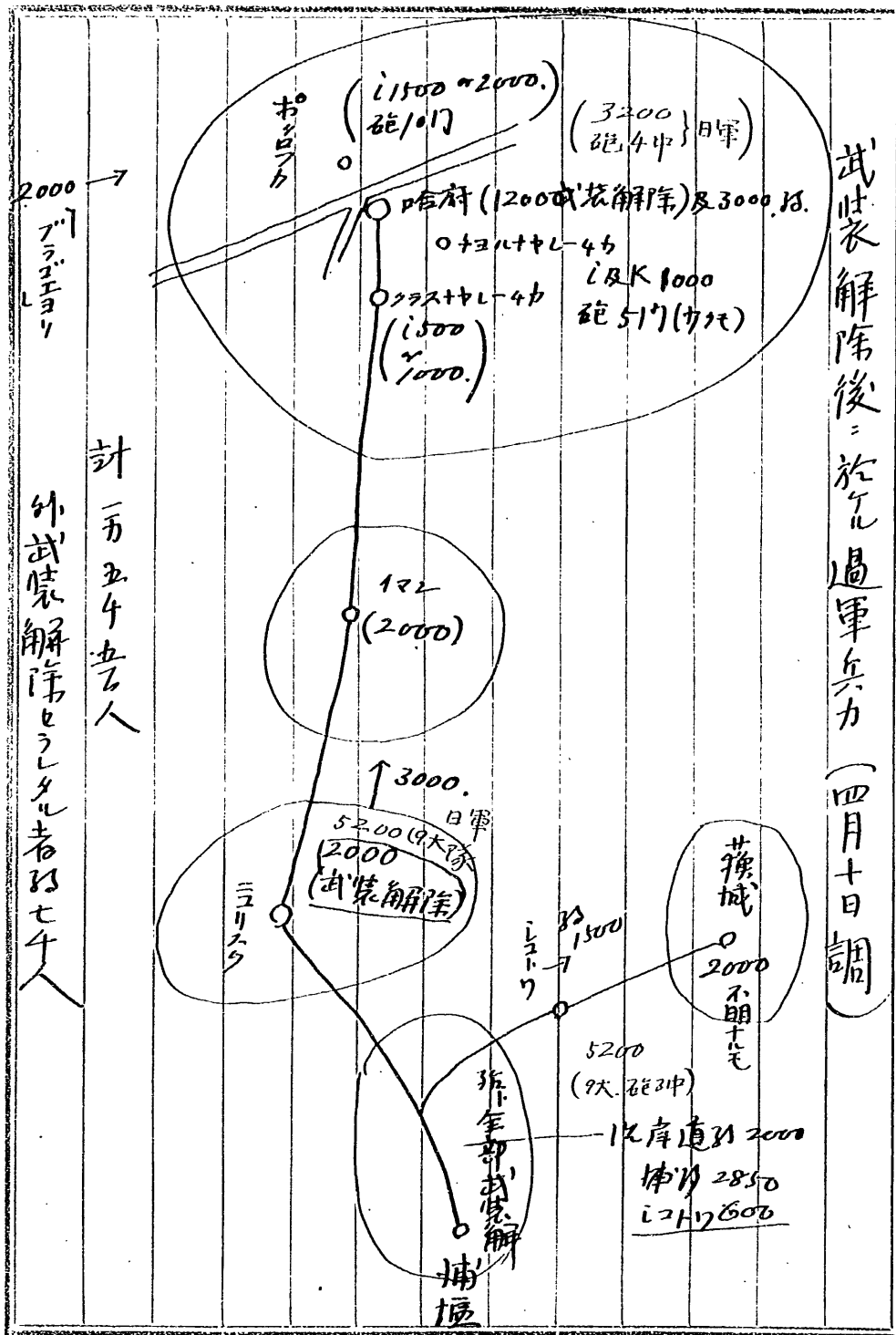
野砲

山内短五種

二門

外ニ砲艦裝備ノ様同銃十九門ハ陸上ニ転用シ得ニマシ

認ム



0176

大正九年三月廿二日起案

起案者

除印

三月廿三日發付

發付掛

除印

發付後起

軍務局長

副官

大官

參事官

第一課長
第二課長

局員

軍令書

第一班長
第二班長

大臣

極秘

各鎮、第一、第二艦隊司令長官
各要、臨南防、第一遣外艦隊司令官

連名
各通

浦塩派遣軍、配備等、關する件

本件、關し、參謀總長、三月十七日、記要旨、奉教訓令、傳

官房機密第三七三號

軍務	官房	局部	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技木	造兵	教育	臨建	水路	軍令
	三月廿三日	三月廿三日												軍令三三三

達し且指示ラナリト旨心得へし

一 訓令

浦塩派遣軍司令官ハ帝國自衛目的ヲ以テ其兵力ノ概ネ東支鐵道沿線及「ホグ」附近ヨリ「樸城」附近ニ至ル線以南ノ沿海州地方ニ配置シ該地方ニ於ケル交通及治安ヲ維持シ以テ直接朝鮮北境吉林省東境及滿州方面ニ對スル過激派ノ行動ヲ防遏スヘシ

ニヨラエヌシニ帝國居留民保護ノ目的ヲ以テ依然一部隊ヲ殘置スヘシ

北滿州ニ於テ支那軍隊ト協カスルヲ要ス

ニ 指示

本訓令ニ伴フ兵力ノ大移動ハ「キチ」スロワ「シ」軍ヲ滿州里附近ヲ通過シ「シ」ル後ニ於テ「著」手「ス」ルヲ要ス

明治四十四

沿海州沿岸ノ治安維持ニ関シテ該方面ニ行動スル我海軍
ト協同動作スルシ

軍行動地域外ニ對シテ派兵ニ豫メ請訓ヲ要スト
ニ屬スル軍隊ニシテ苟モ帝國軍ニ對シテ侵襲ヲ企圖スルカ若ハ
我軍隊ニ危害ヲ加ヘトスルニ於テハ軍ニ自衛上ノ所學ノ処置ヲ
去ルシ

右訓令

終

海令機密第六四號

大正九年三月二十日

海軍々令部次長

第三艦隊司令長官

第五戰隊司令官

臨時海軍派遣隊司令官

宛連名

浦塩派遣軍ノ行動ニ関スル件

「チエックスローヴァック」軍ノ歸還終了ニ伴フ浦塩派遣軍ノ
行動ニ関シ全軍司令官ニ陸軍大臣ヨリ別紙甲號ノ
通指示シ陸軍次官ヨリ別紙乙號ノ通通牒セラレ候
右御心得迄ニ通知ス

(別紙甲號乙號添)

魚印刷納

海軍

0180

秘

秘

大正

供覽

軍令部

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

八二

浦潮派遣軍司令官へ指示ノ件通牒

大正九年三月十八日 陸軍次官山梨半造

海軍次官枋内曾次郎殿

チエックスローヴアツク軍ノ歸還終了ニ伴フ浦潮派

遣軍ノ行動ニ関シ別紙甲号ノ通大臣ヨリ指示シ

尚本官ヨリ別紙乙号ノ通通牒致置候條御承

知相成度候也

軍務局長

マダ

陸軍

陸軍

陸軍

0181

大正九年三月九日陸軍省

(三月九日閣議承認濟)

大臣ヨリ浦潮派遣軍司令官へ指示

チエックスローヴァック軍救援ノ目的ヲ以テ聯合與國
ト共ニ西伯利ニ派兵シテヨリ以來幾トニ歲令ヤ同
軍ノ歸還終了ニ際シ所管事項ニ關シテ指示セン
トス

一、東漸スル過激派ニ對スル帝國ノ態度ハ自衛上軍
ノ行動地域ヲ保持シテ形勢ノ推移ヲ觀察スルニ
在リ

二、極東露領ノ政情安定ナラカルハ累テ朝鮮及
滿洲ニ及ホスモアルヲ以テ軍ハ其ノ行動地域内ニ於

ケル交通及治安ヲ維持スルモノトス

✓ 三、行動地域内ニ於ケル施政ハ露國人ヲシテ之ニ當ラ

シメ民意ト舊習慣トヲ顧慮シテ統治宜キニ適

セシメ穩健團體ヲ支援シテ施政ヲ容易ナラシムヘ

シ

四、軍駐屯ノ目的ハ行動地域ノ交通及治安ヲ維持スル

ニ在リ軍ハ專ラ此ノ本旨ニ依遵シ特ニ之ヲ部内

一般ニ徹底周知セシメ從來ノ關係ニ拘泥スルコト

ナク各機關一致ノ步調ヲ取り苟モ他ノ誤解ヲ

招キ累ラ國交ニ及ホカサルヲ要ス

五、東支鐵道沿線ニ於ケル支那國ノ權利利益ハ之ヲ

尊重シ同沿線ノ交通及治安ノ維持ハ其ノシテ

支那國軍隊ヲシテ之ニ當ラシメ軍ハ之ト密接
ナル協調ヲ保持スヘシ

六、行動地域内ニ於ケル鮮人ノ情態ニ注意シ適應
ノ處置ヲ取ルヲ要ス

七、帝國軍人ノ外人ニ對スル態度ハ我威信ヲ保持
スルト共ニ勉メテ其ノ關係ヲ圓滿ナラシメ萬
一事端ヲ生スルニ至ラハ所在官憲適宜之ニ
處置シ迅速ナル解決ヲ爲スヲ要ス

八、駐屯久シキニ從ヒ軍紀風紀ヲ弛緩スルノ虞ナキニ
アラス各級幹部ハ自ら戒メ部下ヲ指道寸シテ遺
憾ナキヲ期シ特ニ深甚ノ注意ヲ加ヘテ過激
思想ノ感染ヲ防止シ國軍ノ聲價ヲ失墜スセ

サ
ラ
ン
コ
ト
ヲ
要
ス

0185

大正九年三月九日陸軍省

〔2号〕 (三月九日閣議承認濟)

次官ヨリ浦潮派遣軍司令官へ通牒

チエックスローヴァック軍ノ歸還終了ニ伴フ貴軍ノ
行動ニ關シテハ大臣ヨリ指示セラレタル處軍ノ行動
地域内ニ於ケル交通及治安ヲ維持スルニ就テハ貴
隸下部隊ノ概ネ新配置ニ移リタル後同地域内ニ
於テハ過激派ニ屬スル武装團體ノ存在ヲ許ササル
義ニ付御承知相成度尚本件ハ前頭指示ト共
ニ閣議ノ承認ヲ經タル次第ニ有之候右依命
及通牒候也

0186

供覽



軍務局長

第一課長

吉賀

海軍

尼港派遣軍輸送船ニ関スル件

九四六年三月十日 吉賀

一 和田騎兵大尉(陸軍、軍事課員)末談要旨

尼港派遣軍輸送船大禮丸一面ニ事足ルヤ

否ヤ、關シ海軍大臣閣下ト陸軍大臣閣下

ト間、本日御治シヤリシ趣、當方ニ(陸軍ノ下)

取調ノ結果大禮丸ニ二面ヲ要スルニ付

右海軍大臣閣下、申上ケテ度以上依命

二 右、對シ為答、右派遣軍兵カ、ヤハリ前回ト全一

ヲ尋ネルニ、前回ト同一大隊ヲ基幹トスル部隊

ナル旨、和田大尉ニ答ヘタリ

(明治印刷納)

0187

供覽

供覽

軍務局長

第一課長

局員

海軍

電報

第三艦隊參謀長

各宛

有副官

第二艦隊長 渡島艦隊長

極

秘密

官房第九四

午後四時五分發電済

最近浦塩に勃発セル日露軍衝突事件ニ関シ陸軍

關係事項ニ本六日陸軍ニテ公表セル海軍ニ關スル

新聞記者等ヲ持テ質問アリタル場合ニ極簡單ニ

九記要旨ヲ説明スルニ定メタルニ付有由ニ

貴方ニ於テモ右ノ準シテ處理セヨトシテ依命

九記(在浦塩露艦艇ニ其乗員ヲ陸上戦ニ参加セル者

我軍ニ對スル戦術リ為アリタルヲ以テ我海軍ハ四月

其武裝ヲ解除セヨトス

各班長

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

9.4.7
0188

供覽



供覽

軍務局長

芸

第一課長
第二課長



局長
官印



海軍

新聞公表案

記者の質問に答へて云ふ所あり

在浦塩川原第五戦隊司令官報告依り四月四日夜半

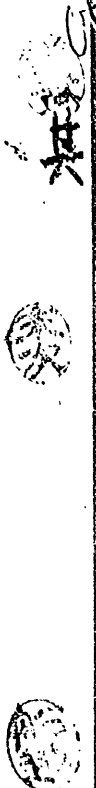
露國軍に突然我陸軍に對し戦闘行為を開始し我軍

之に應戰中より在泊露艦艇に其乗員を陸上戦闘に参加

せしむる等、我軍に對する戦闘行為アリタルに於て我海軍に

班長 露艦艇を撃沈し其乗員を捕虜にす

四月五日其武装ヲ解除せしむるに當り南滿洲州に在る我軍



(明正印刷局)

秘

次官

陸軍省

大

軍務局

軍令部

海軍

陸軍省新聞紙畑中依り電話(九四一六) 9.00a

換入ノ概要ヲ右日ニ於テ發表スル旨申添アリ

浦潮ニ於テ四月二日以降ノ事件ノ経過ハ陸

軍ニ様リテハ頗ル重大事件ナルニ付 充分攻究

ノ上ナラズハ公表セサル方針ナリ 就テハ海軍

ニ於テモ何卒 太市合ノ上 密分 秘密ヲ保タ

ルル様ニ預ヒ友シ 外務省一モ 全標ニ交

渉中

追テ公表ノ時機ニ至リマシタ節ノハ公表案ナ

ルニ相談ヲ度シマス

教令ニ注意スルニ肝要トス

終

(明正印刷社)

0191

供

軍務局

訂正ノ下

四月六日 陸軍省彙表

正午

0192

我浦潮液遣軍司令官ノ浦潮臨時政府ニ對スル交渉ハ
 本月三日開始セラレ四日夕交渉結了ヲ告ケ臨時政府ハ概不
 我要求ヲ應諾レ五日午後五時ヲ以テ調印ノ運ヒトナレリ然
 此ニ四日午後十時十五分我兵站部歩哨及將校巡察隊等ハ
 突然露兵ノ射撃ヲ受ケ~~浦潮臨時政府~~露軍ハ發砲ノ動機トシテ市中
 諸所ニ~~砲撃~~我軍司令部官ハ一般ノ情勢上露軍ノ行
 動ハ豫メ計畫セラレタル敵対行為ナルヲ認メ已ムナク之レト
 対抗志為五日早朝浦潮市街及其附近ノ露軍ニ對シ武
 裝解除斷行ニ決レ之カ實施ニ着手セリ既ニ臨時政府當
 局ハ交渉殆ド~~中斷~~解決ノ見~~在~~ナク~~露軍~~露軍
 ヲ率~~テ~~露兵ノ甚ク~~テ~~露軍ハ~~浦潮~~浦潮臨時政府部内~~ニ~~其軍
 隊~~ヲ~~不~~能~~制~~ス~~基~~ク~~モ~~ト~~察~~セ~~ラ~~ル~~

供覽

供覽

秘

軍務局長

出

第一課長

出

小教

局員

海軍

尼港救援軍派遣ニ関スル件

九四一〇

古賀少佐

軍港ニ揚陸件決定ニ趣

トカ貴有ヨリ提出セラル書物

アリテ送付ノ得度旨陸軍省軍務局浦中佐ニ申込

タル処尤記要旨電詰回答アリ

一、書キ物何ヤシ

ニ、十樽ヲ発シ今ノ処未ナ日頃積リテ計重中ナリ

三、依遣軍準備方、昨九日内訓ヲ發セリ

班

出

出

下

出

(明正印刷)

供

軍務局

軍令部

依原外務省の意思より
(三月十日閣議決定)
外務省決定

小林 三ノ子 中野 武

嚮：帝國、西伯利亞に出兵シタルハ、千上ツク
軍、救援シ目的トシタルヲ、千上カ部同軍
ノ引揚ニシテ、事實完了シタルトシテ、帝
國之亦撤兵ノ氣、出ツキハ、出兵為
時、宣言、依り明ナリ、然ラト雖希
國、西伯利亞ニ對スル地理的關係ハ、他
列強ト自ラ其ノ強ク、是ニシテ、
極東、正性ハ、直ニ鮮滿地方、性

ト
解
答

0134

況ニ彼及スルノミナリク西伯利地方
 ニ於テ多ク為テ我民ニ其ノ生命線
 産、安全ヲ耶元能ハサレ、實情ニ
 立テ是レ希玉カ邊ニ搬兵ヲ新リ
 スル能ハカ不心ニシテ其ノ智察玉
 ニ示シテ何カ政治的聖心見カラス
 故、我接壤地方、政情安定シテ
 鮮滿地方ニ示スル危険除去セラ
 レ我民為民ノ生命線産ヲ安固ナ
 テシメ夫通、自由保障セラル、ニ至ラ

ハナチエツシ軍、撤去定了後成ルハ
ク連々西向利地方より我軍係リ
引揚々、首々、重々我陣之
存スルハツテ多ク久

卜落合

G196

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

夕
夜
全

0137

大正九年 四月廿九日 起案

起案者 捺印

古賀

五月

一日

日發付

捺印

發付後起

案者捺印

軍務局長

副官

第一課長

副官

參事官

參事官

參事官

參事官

局員

局員

大臣

次官

次官

參事官

軍令部長

第一班

第一班

第一班

次長

電報(暗號)

電報

大臣

各鎮第一第二艦隊司令官
各要隘南防第一第二遣外艦隊司令官

極秘

官房第一二五番電報

五月一日 發電

ニコラエフスク 救援ニ関シテハ日暮ニ電訓セシ官房様密第一〇三

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部	運船	變	發月	日	
五	五	三	九	五	三	九	五	三	九	五	三	九	五	三	九	五	三	九	五

番電報、部隊以外今般更ニ歩兵五ヶ大隊、山砲兵ニ中隊
ヲ基幹トスル部隊ヲ増遣セシメラル、ホトナリ、談部隊ハ五
月中旬頃小樽港發芽三艦隊掩護、下ニ「テカス」
湾」方面ニ上陸シヨラエラシク、方面、向テ豫定ナリ比旨心得
ニシ

手取

極秘

閣議決定

大正九年四月二十日 陸軍省

G200

經理局長

防

維持費(月額) 約百二十萬円

約五十萬円

本部長

次長

下部長



「ニコラエウスク」派遣隊ノ兵力増加ノ件
「ニコラエウスク」派遣隊ハ差向北樺太へ上陸セシメタ
ル處「ニコラエウスク」ノ敵情ニ鑑ミ更ニ歩兵約二
大隊砲兵ニ中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ増加シ五月
上旬該地ニ派遣シテ我守備隊及在任官民ヲ救
援シ尚其ノ一部ヲ北樺太ニ残置シ共ニ將來帝國
居留民ノ保護及治安維持ニ任スルコトト致度

大臣局長白

二十一年三月十日

マールコン十モニタ

ヨサンニ未決

極秘

大正九年

四月十四日起案

起案者 除印

三月廿四日發付

發付部 除印

發付後起

案者除印

起案罪紙

軍務局長

第一課長

局員

參事官

副官

野

次長

第一班長

第三班長

電報 (暗號)

大臣

各要、温南防、第一、二遣外艦隊司令官、各通

極秘

官房第一の三番電報

午後三時五分發電濟

這般「ヨロエ」方面、情勢ニ鑑ミ之ヲ救援、為メ第七師團

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	儲政	人事	軍務	官房	局部
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

0201

ノ歩兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ派遣セシメラル・コトナリ誤部
隊ニ未_レ十日頃小樽港ヲ発シ三笠見島掩護ノ下ニ一時
北樺太_{アトキサントロフス}附近ニ上陸シ_テ見_テニコラエフスクニ向
ヒ進発スル豫定ナリ。此旨心得ヘシ

0202